

第3回深川市特別職報酬等審議会（会議録）

日 時：平成31年1月22日（火） 午後1時～午前1時50分

場 所：デ・アイ 研修室

出席者：（委 員）遠藤、倉本、柏木、橋本、藤川、阿部、櫻田
（事務局）吉村、佐藤、小川、佐伯

1. 開 会

2. 議事

会長

本日の会議は昨年末に答申書の原案を皆さんにお送りさせていただいておりますけれどもその最終調整ということでご意見を賜りたいと考えております。最初に、前回の会議では市長、副市長及び教育長の給料につきましては据え置き、そして議員報酬につきましては増額という方向でみなさんの意見が一致しましたが、その額につきましては、前回までの会議では財政情勢などを考慮すると大幅な増額ではなくせいぜい1万円程度ではという意見もございました。今回の原案では、人口規模や産業規模が類似する市町村などを鑑み、本市の人口のプラスマイナス概ね5千人で1万5千人から2万5千人の道内の産業構造が類似する市の議長、副市長及び議員それぞれの平均値を基準としまして原案とさせていただきました。お手元の資料にございますように北海道内の市町村で人口規模が1万5千から2万5千人で総務省が設定する類似団体区分I-1の団体は、美唄市、紋別市、富良野市、士別市、深川市の5市でその平均額が議長は39万7,400円、副議長は、35万1,800円、議員は32万4,000円となっております。答申案では5千円単位で数字を丸めて議長が40万円、副議長が35万円、議員が32万5千円という数字を設定させていただきました。参考までにその効果額を積算すると報酬増による年間所要額が283万円で議員定数減に伴う効果額を含めると年間1,085万6千円の効果額となります。それではみなさんからのご意見を頂戴させていただきたいと思っております。

委員

一応平均値をとった金額がでておりますけれども現行の報酬と比べると議長が2万4千円、副議長1万3千円、議員8千円の増額になりますね。平均に準じるということですが、増額率がかなり違うのでこれを検討していただきたいと思っております。

会長

これに対しまして皆さん方はいかがででしょうか。均等な増額率の方がよろしいでしょうか。

委員

前回の全員を1万円上げたときの効果額と大体同じくらいということと、他市では議長、副議長と結構な差額を設けているという意味では原案でかなり合理的な理由があると考えますし、私は原案に賛成です。

会長

ありがとうございます。

委員

この数字の出し方にも一律に上げるべきなのか又は原案どおりにするか私にはまだわかりません。

会長

上げることに関しての妥当性がないということですか。

委員

一律ということでももめると思いますし、上げるということには賛同したのですが一律でいくべきか原案どおりいくべきかが私の中で結論がでていません。

会長

事務局から今の委員の意見に対してなにかありますか。

事務局

それぞれの職責に応じた報酬額が決まっていますが、初回にお配りした資料の中に議員報酬額の推移ということで報酬額の増減を一覧にしているものがあります。過去の経過を見ましても、一律で上がっている状況はないということを押さえていただきたいということと、他市も議長、副議長はそれぞれの議会を代表した業務等が他の議員より多いことを含めて報酬を高く設定されていると思われるのでそれに比べると現在の当市の金額は低めであるということは以前の資料でも出しておりますのでそれも含めてご検討いただければと思います。

会長

議長、副議長の役目が多々あろうと思いますのでそこを踏まえての比率ということで理解はよろしいですね、いかがでしょうか。

委員

上げることには同意しますが、金額が40万だとか35万ということが妥当なのかといわれるとわかりません。

会長

わかりました。

委員

私も上げることには同意していますがどれくらい上げたらいいかということは人口が近い市を参考にしていただいていると思うのですが、この5市でもそれぞれ財政状況は少しずつ違うと思います。人口が同じでも紋別市は流氷などの観光地であって人口が一緒でも財政状況は参考になるものではないと思います。平均をとるときに紋別市によって金額が引っ張り上げられていると思います。なので、平均値が参考にはなってもそれに近づける必要性はないかなと思うので原案ほどの上げ幅はなくてよいと考えます。紋別市を抜いて平均を出すと別の数字がでてくると思います。深川市としては議員数が2名減り、業務の負担が増えるということで上げる結論にはまったく異論はありませんが、上げ幅が大きいと正直なところ思います。

会長

ありがとうございます。議員定数減も鑑みるところですが、何かありますか。

委員

前回までの話では増額は1万円程度が妥当かという話がでていましたよね。ただそこからどのように設定していいかわからない中で規模の同じようなところを参考にしたということはよいと思います。最初に委員がおっしゃったように議長の上げ幅がずいぶん大きいとは思いましたが、確かに議員報酬の推移を見ると議長の上げ幅が少なかったのでここで戻すような考えであれば原案でいいのかなと思いました。市民からすると議長だけずいぶん上がったように見えるかもしれないので先ほど事務局からあったような説明がなされるのであれば問題はないと思います。

委員

私も上げることは同意ということでお話をさせていただきます。議長、副議長とお話しする機会が多く、やはり市議会におけるウエイトは大きいかなと思いますので。ただ、失礼にあたるかもしれませんが、金額的に議長は上がったなという印象をパーセントからも思うところです。

委員

議長が6.4パーセント、副議長が3.9パーセント、議員は2.5パーセントですね。

委員

ですよ。このままでは若干多いかなと。皆さん方の判断によると思いますけれど。議長は出番で言えば間違いなく年間で200日くらいはでていないかとは思いますが。

会長

そうですね。会議であるとか深川市の顔として出ていただくことがありますね。

委員

その関係もありますのでこのくらいはしかるべきではないかなと思います。最終的にはこの金額でよいのではないかと考えています。

会長

上げ幅の比率からいけば委員がおっしゃったように格差が見受けられますが、このことに対して上げ幅を平均にすべきかこの数字でいくべきか、ということで皆さん方のご意見を賜りたいと思います。委員のお話のように表に出る活動が多い中で上げ幅が多少大きくなっていても妥当性があるというご意見を頂戴しましたがこれに関して何かありますか。

委員

前は全員が一万円程度ということが私の頭にありましたが、メリハリを付けるという考えもなるほどと考えます。確かに他は議長、副議長、議員では明らかに違いますね。皆さんがおっしゃるように深川市の顔としては市長と議長になりますね。16人から14人に減ることによって議員ひとりの仕事も大きくなるのは当然ですけども同時に議長、副議長の役割というのもさらに強まっていき重責を担わなければいけないのだらうかなと思いますので私としては全体の効果額が同じであれば議長、副議長の重責から差をつけるというのは合理的だと思います。議長、副議長には一般の議員よりも多くの活動をお願いして報酬を出しています、とはっきりさせたほうがよい

かなという思いになってきています。むしろ差をつけたほうがいいのかと思います。

会長

比率に関してどうですか。均等にすべきと思いますか。

委員

均等にすべきとも思っていないんですが、これだけ増額率が違いますので不思議に感じないかなということもありますし。

会長

比率の問題に関してもう少し考えるべきかというところでもう少しご意見を頂戴したいと思います。妥当性があるのかないのかについて、もう一度お伺いさせていただきます。

委員

先ほど述べましたように最初は議長だけ2万4千円も上がるのかという思いもありましたが、今の話の中で議長の大変さがわかりましたのでこれまでの上げ幅の少なさから戻したと私は理解して原案で妥当かと考えます。議員は8千円の増額なので1万円に近づけたいという思いもありますが基本は原案でよいと思います。

委員

議長の出番が多くて大変だろうということはわかりますし、上げ幅の統一というつもりもまったくありませんが、いきなり40万円という大台に乗っているところは皆さんが驚かれると思うので頭を3の台に変えたほうがよいのではと思います。

委員

印象はいいですね。

委員

少し違うと思います。39万円程度だと風当たりは弱まるのかなと思います。一般市民で会社員の人たちは、役職や内容は違いますが、それだけ上がる人はいないので注目は集まると思います。それに伴ってどのように活動が変わるのか、今までの経緯などを説明できれば皆さんが納得されるかもしれませんが、全員が全員そうではないと思いますので見た目の印象は大事だと思います。

委員

大事ですね。数字に表れたときの反発が予想されますし。

委員

目をひく数字であると思いますので増額する必要があるということを伝えるためにもまろやかに、40という数字は風当たりがきつくなるのかなという第一印象でした。

会長

ということは5千円マイナスした方が皆さんの見やすい形になりますか。

委員

この結果は広報に載りますよね。

会長

結果につきましては、答申を市長に渡して、その後市長から議案として議会に提出して決まります。私たちの審議会では結論はこのとおりですがいかがでしょうかと

いうことを答申とします。

委員

おそらく答申した金額がそのまま議案となるのではないかと思います、この審議会の7名の委員でもそれぞれの考えがありますよね。議長の大変さはわかりますが金額から市民が受ける印象とその反応がどのようになるかと思うと。一生懸命に仕事をしてくださっている状況を市民も見ていてくださっているとは思いますが、先ほど委員がおっしゃったようにまろやかにできればと思います。

会長

お手元にある答申案では議員に対しての皆さん方からのご意見も踏まえて無駄な時間と経費を使っているように見えるということも書いてありますし、一生懸命やっている方もいるということも書いてありますし、その意見を汲んで議員活動をしてほしいという思いをこめていますけれど、やはり30万円台に押さえますか。

委員

30万円台にこだわる必要はないと思います。確かに他から比べると高いといわれる面があり、数字の3と4の違いはありますが、やはり議長というのは特別ですので、市長がいなくても議長が出席していただければという会議等も十分にあるということを考えてときにせっかく今回は上げるとお話を十数年ぶりの改定をさせていただく中で多分次回のことを考えるとこのときに上げておけばよかったのではないかと私はきっと思うと思いますので40万という数字をせっかく出しているのであればこの数字を残していただけたらと思います。

会長

いかがでしょう。

委員

商売的にはイメージ的にまろやかになるのは30万台ですけれど。平均と比べると議員が1,000円高く、副議長が1,800円低いですよね。5,000円区切りだと気持ちのいい数字になりすぎているかなという気がします。その面からも市民からはどうしてこの数字になったのかという意見がいろいろと出るだろうとは思いますが。議長は切り上げて40万になっていて副議長は平均からみたら切り下げられていますよね。その面で見ると平均に合せたといいながらマイナスだったりプラスだったりいろいろなのでこだわらなくてもまろやかにできればそれを検討してもいいかなと思います。この数字はあまりにもきれい過ぎるなど。今までは33万7,000円や31万7,000円と半端だったのでこの印象はどうかと考えております。でも、議長の出番を私もいろいろなところで見えていますのでそこはかなり評価をするべきだと思います。

会長

調整が難しくなってくるとは思いますが、要するに39でいくのか40でいくのかそれだけかなと思われませんが。

委員

39万8,000円、39万5,000円の違いですけども、私は積極的に40万円っていくべきじゃないかなと思います。前にも言いましたが今後人口減少で厳し

い状況が続くのは間違いありませんが議長の40万円、これは絶対に下げない。議員報酬で議長が40万円というのが当然だという。深川市の地域づくりの先頭に立ってもらふ意味で40万円は絶対に下らないことにする。できれば議員に40万円あげたいというような積極的なスタンスで私は是非40万という数字を出していただきたいなと思うんですよね。やはりちょっと前向きに考えていくべきではないかと。

委員

聞こえがいいように39万と言われたらなるほどと思いますし、今の委員の話を聞くと積極的に40万円というのもなるほどとなります。揺れ動いていますが基本的には原案に賛成です。

会長

ありがとうございます。それでは2名の委員の言われたように将来を見据えた数字として40で答申をさせていただきたいなと考えますけれどよろしいでしょうか。確かに見栄えとすれば39でしょうけれどこれから議員定数が2名減の中で議長も新しく変わってくるかと思えます。新しくなった議員にもさらなる奮闘をしていただく意味合いもこめたかたちで40の数字というかたちで答申させていただければと考えますけれど。

委員

私は特別反対はしていません。ただ原案の金額をみてこれが正当なのかなという気持ちがありました。議長の職務が大変だということはわかっております。ただ、見方としてはどうなのかなということも半分あります。委員のようにちょっと気持ち的に揺れ動く状況もあります。私たちが責任を持たされているという気持ちがあるので、簡単に数字をここで上げると先のことがどうなるのかと。だからといって反対はしません。皆さんがそれぞれ職務にあたっています。まして一番最初におっしゃったように紋別市の状況と比較して深川市は収入面が大変な市だと思います。なぜならば大きい企業がないということと人口が減ってきているということで。一生懸命がんばってこの深川市を盛り上げてくださいという気持ちをこめてであれば40万で構わないかなと思います。報酬が上がって当たり前という考えで議員をやられるのは。私たちが今一生懸命それぞれの職務をわかって報酬に賛同していくという状況を把握してほしいという気持ちがあります。

会長

委員からまろやかということが出ていましたが、ご意見はありますか。

委員

市の状況も変わればこの委員会もまた開催されることにならざるを得ないのかなと思いますので今回は皆さんがおっしゃるように激励も含めてこの案で了解しました。単に上がるだけではないことはわかってくれると思うんですよね。激励もこめてなおかつ市民の目も厳しくなるということも議員の方たちには上がった意味がわかっていただけと思うのでそこに期待してこの案のとおりで賛成したいと思えます。

会長

そこを十二分に考えた中で答申書に書き入れたいなと考えます。上げるのだから一生懸命仕事してくださいと。さらなる深川の発展のために努力してくださいという

ことを含めた答申にしていきたいと思います。原案が皆さんのお手元にありますけれども内容に補足あるいは訂正等があればご意見を頂戴したいなと思います。それでは今日で3回目となりますが、一番最初にあった議員の資質を問うだとかも入れて議員には職務を果たしていただきたいという意味合いをこめて答申したいと思っています。

委員
今の議員の内部の揉め事はあまりにも見苦しいので、やはり当然メディアにでるのも当たり前なんですけれどね。文章にいられていただくのは市に対する牽制もあると思いますので。

会長

深川市の議員としてバッジをつけてということではやはりそれなりの品位と格式をもって行動していただければなと考えますけれどね。そのことも一言答申の際には加えさせていただきたい。それでは、今後の流れにつきまして事務局からなにかありますか。

事務局

今日で答申案の最終的な決定をいただきましたので今後につきましては、1月29日の午後4時から遠藤会長から答申を市長に直接渡していただくこととしております。委員の皆さんで当日ご都合がつけばきていただければと思います。ご都合がつく委員さんがいましたら後ほど事務局にご連絡いただければと思います。答申をいただいた後市で改めて検討させていただいて若干の調整が入る可能性もありますけれどもそのような形で最終的には議案として決定をさせていただきます。

3. 閉会